

小学校

平成 11 年 度

# 教育研究員研究報告書

社 会

東京都教育委員会

平成 11 年度

教育研究員名簿

分科会	地区	学校名	氏名	分科会	地区	学校名	氏名
第三学年	目黒	向原小	今橋直子	第五学年	世田谷	桜町小	原田俊昭
	中野	啓明小	小山朗子		杉並	久我山小	○佐藤智恵子
	豊島	目白小	川村 聡		江戸川	下鎌田小	土屋秀人
	荒川	大門小	○勝山典昭		府中	府中第九	小亀山桂子
	昭島	つつじが丘北小	大谷文彦		江東	明治小	◎関 哲也
	小金井	東 小	小澤伸生		品川	八潮北小	福田英史
第四学年	北	滝野川第三小	近藤健二	第六学年	大田	西六郷小	原田高尚
	練馬	開進第三小	柳沢晶子		板橋	成増ヶ丘小	○和田幹夫
	足立	扇 小	渡邊きよ子		江戸川	清新第一小	丸山岳也
	葛飾	花の木小	和田このみ		青梅	成木小	塚田直樹
	八王子	松木小	大類英美		町田	三輪小	土田 昇
	調布	緑ヶ丘小	○重永直人		武蔵村山	第二小	榎本克己
	保谷	栄 小	高橋まゆみ				
三宅	坪田小	矢吹仁寿					

◎ 全体世話人      ○ 世話人

担当 教育庁指導部初等教育指導課指導主事 堀竹 充

# 目 次

I 社会共通研究主題	子ども自身が目的意識をもって 問題解決に取り組む社会科学習
II 研究主題	
1 第3学年分科会	地域や人とのかかわりを深めながら、 課題をもって追究する力を育てる学習活動の工夫 …… 2
2 第4学年分科会	子どもが自分なりの課題をもつための学習活動の工夫 …… 7
3 第5学年分科会	主体的に調べ、自らの考えを深めていく学習活動の工夫 ……13 ～子どもが作る学習計画を生かして～
4 第6学年分科会	子どもが追究意欲を高める学習問題づくりの工夫 ……18 ～人物の働きや生き方に目を向けて～
III 研究の成果と課題	……24

## <概要>

- これからの教育では、ますます激しく変化することが予想される社会において、その変化に適切に対応できる力を育てることが一つの重要な課題である。また、我が国の国際化の進展を踏まえ、豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人を育てることも、今、教育に求められていることである。そのためには、単に知識を網羅的に暗記する学習ではなく、児童自身が主体的に問題解決に取り組む過程を通し、新しい知識や技能、態度を身に付けることのできる学習が大切である。
- 児童が主体的に学習するためには、児童自らが、どのような活動をし、何を明らかにしていくのか、何をどのように表現し伝えるのかなど、自分の活動の目的をはっきりと意識し、学習活動に臨む意欲や態度が不可欠である。そこで、問題解決的学習、体験的な学習を中心に据え、地域素材や身近な物や人とのかかわりから社会的事象への興味・関心や課題意識を高めながら、学習問題をつかみ、問題解決への見通しをもち、意欲的に追究していける学習活動の工夫に努めた。
- 研究の推進に当たっては、社会共通研究主題を設定し、それを基調として4つの分科会が各研究主題と仮説を設定した。各分科会では、文献及び授業実践の先行研究に学びながら、授業研究を通して仮説の検証を行い、研究主題に迫るように努めた。

地域や人とのかかわりを深めながら、

課題をもって追究する力を育てる学習活動の工夫

### I 研究主題設定の理由

児童は、生活科での具体的な活動を通して、自分と身近な社会・自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身の生活を考える学習をしてきた。また、自分なりのこだわりをもって追究することや学習したり体験したりしたことを表現する活動も多く経験している。このような学習経験や技能を生かすとともに、見学の課題を設定したり情報を交換したりする学習活動を工夫していけば、意欲的に課題をもって追究する社会科学習を実現できると考えた。

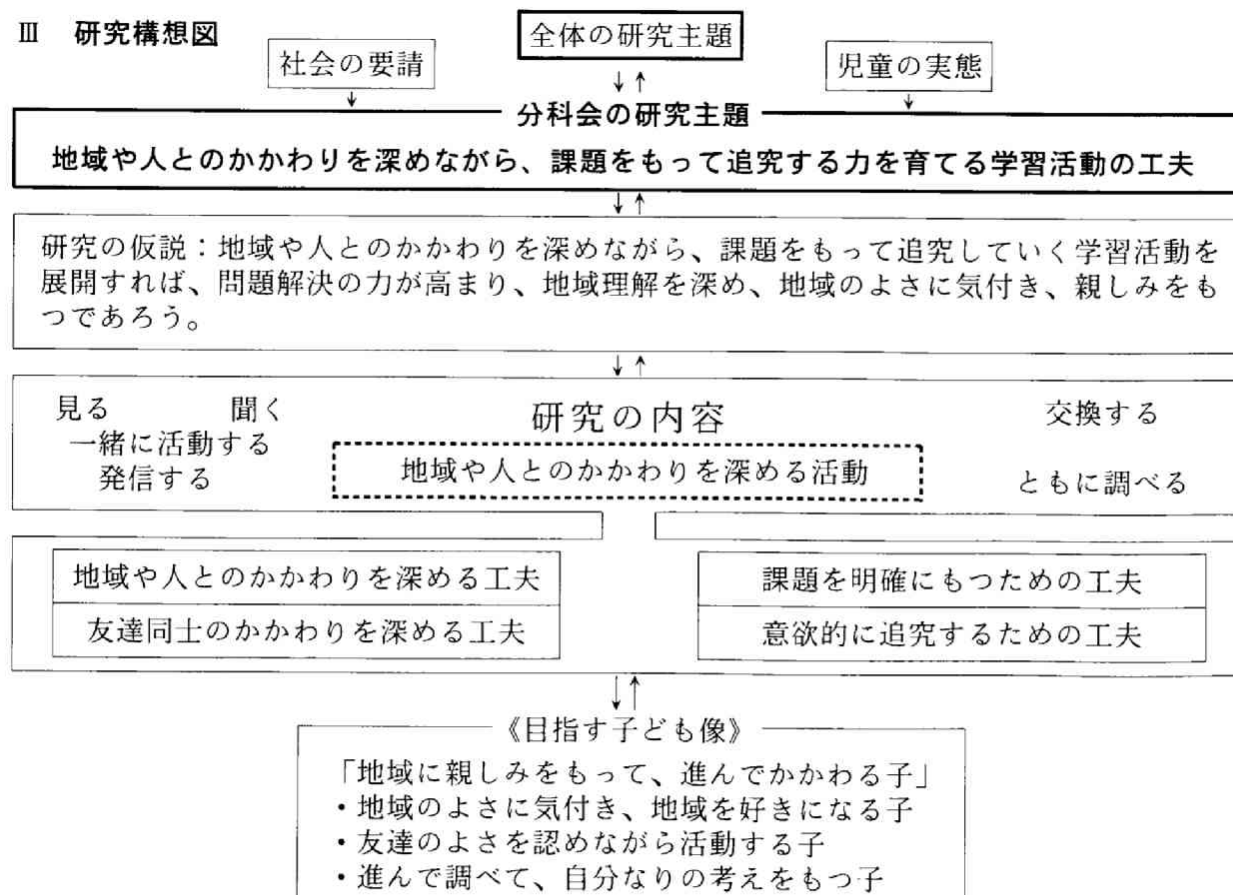
3年生の社会科の内容は地域学習である。そこでは、自分の生活が地域や人とかかわっていることに、子ども自身が気付くことが重要である。そして、地域に対して親しみをもち、自分が地域の一員であることを自覚していくことが望まれる。そのためには、地域や人に焦点を当て、より多く、より深くかかわりをもてるような体験的活動を工夫することが重要であると考えた。

本分科会では、全体主題の「目的意識をもって問題解決に取り組む」子どもの姿を「地域の事象について関心を持ち、一人一人が意欲的に追究し、地域に対する親しみをもちつこと」ととらえた。また、その実現のためには上記のような指導の工夫を図ることが大切であると考える。そこで、「地域や人とのかかわりを深めながら、課題をもって追究する力を育てる学習活動の工夫」と主題を設定した。

### II 研究の仮説

地域や人とのかかわりを深めながら、課題をもって追究していく学習活動を展開すれば、問題解決の力が高まり、地域理解を深め、地域のよさに気付き、親しみをもちつであろう。

### III 研究構想図

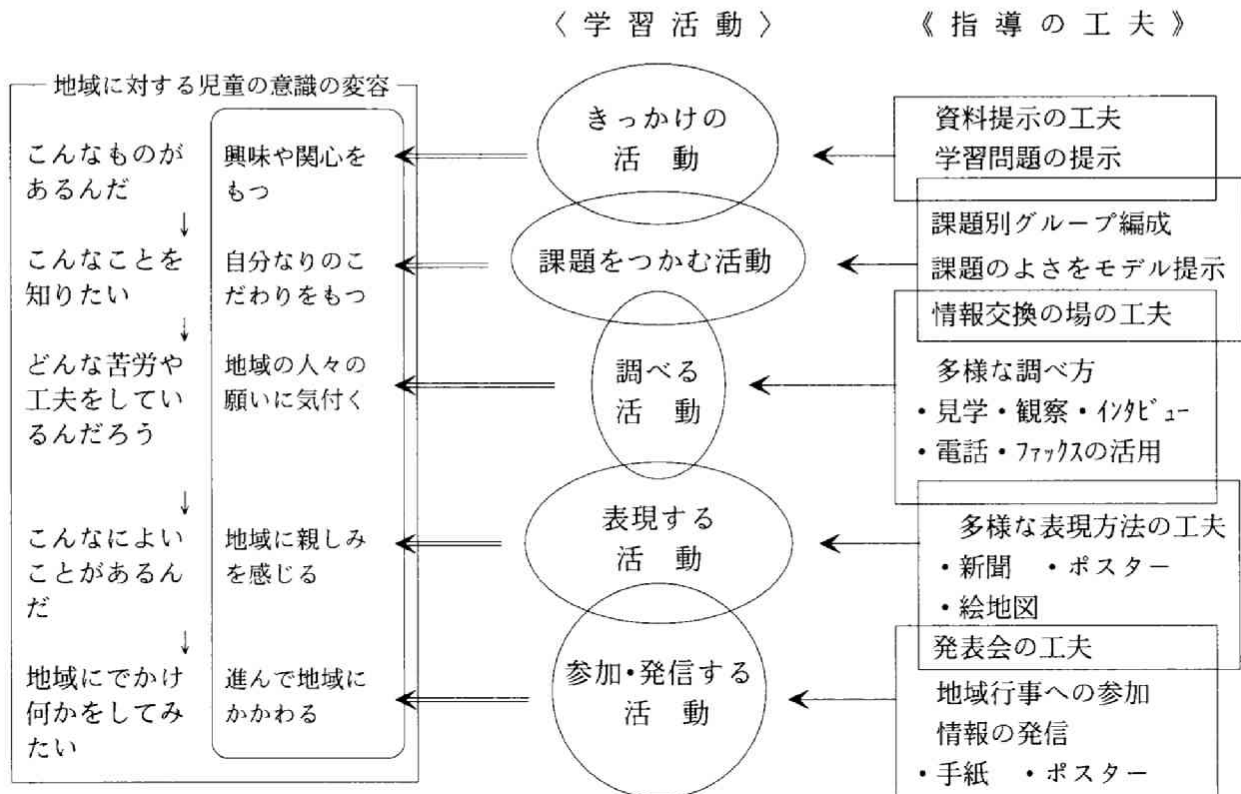


#### IV 研究内容

##### 1 地域や人とのかかわりを深めるために

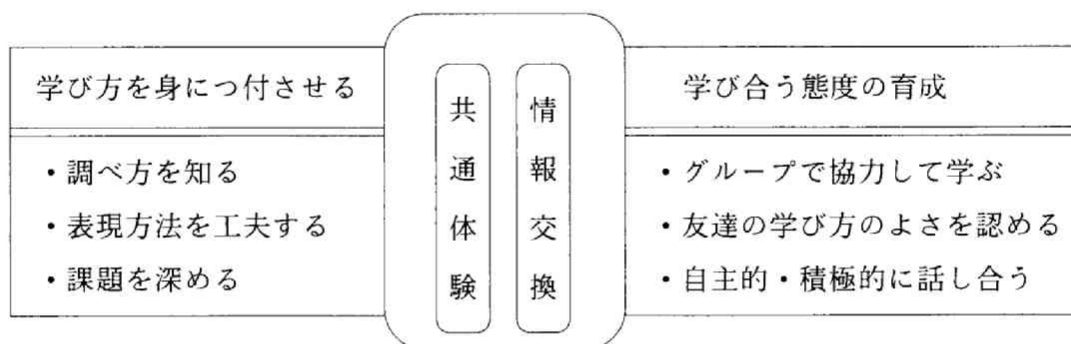
###### (1) 地域や人とのかかわりを深める学習活動の工夫

資料や課題の提示の工夫、学習の場の工夫、学習方法の工夫などの視点から指導の工夫を図ることにより、かかわりを深めさせるよう支援できる。



###### (2) かかわりあって学ぶ活動

友達同士のかかわりを深めさせて、学び方を身に付けさせ、学び合う態度の育成を図ることにより、地域理解を深めさせることができる。



###### (3) 「地域や人とのかかわりを深めるための学習活動表」づくりをすすめる。

「活動表」を單元ごとにつくることにより、子どもたちが地域や地域の人々とのかかわりを深めていくためには、どのような学習活動が効果的であるかの検討が容易になる。さらに、単元の指導計画の中に、それらの学習活動を意図的・計画的に取り入れていくことができ、地域理解を深め、地域への親しみをもたせることができる。

《地域や人とのかかわりを深めるための学習活動表の例》

学習過程	かかわりが深まる過程	地 域				友 達	
		見 る	聞 く	一緒に行動する	発信する	交換する	ともに調べる
つかむ	○興味や関心をもつ ○自分なりのこだわりをもつ	店の人のビデオを見る	会長の話を聞く			買い物調べの結果を話し合う	店見学の計画を話しあう
調べる	○地域の人々の苦労や工夫に気付く ○地域の人々の願いに気付く	店の見学をする	店の人にインタビューをする	店の仕事を手伝う	商店会のポスター等を作り掲示する	調べたことを話し合う	一緒に店に行き調べる
まとめる 生かす	○地域への新しい見方が生まれる ○地域や地域の人々に親しみをもつ ○進んで実践しようとする		地域の人々の話を聞く	進んで買い物をする			

## 2 課題をもって意欲的に追究するために

### (1) 体験的な活動を重視する

新たな発見や感動を伴った体験や活動の繰り返しを取り入れることが大切である。このことによって、地域の人や事物・事象と出会う喜びや楽しさを味わわせたり、新しい疑問や意欲に応えることができる。

- |            |            |                |                    |
|------------|------------|----------------|--------------------|
| ○見る        | ○聞く        | ○一緒に行動する       | ○発信する              |
| ・見学や探検に行く  | ・インタビューする  | ・買い物を<br>する    | ・商店街にポスターを<br>掲示する |
| ・図書館等を利用する | ・図書館等を利用する | ・店の仕事を<br>手伝う  | ・招待状や礼状を<br>書く     |
|            |            | ・地域行事に<br>参加する | ・ビデオレターを<br>送る     |

### (2) 課題づくりを工夫する

個人の課題が学習全体の中でどのような価値をもつかに気付かせ、課題を広めさせたり、深めさせたりすることによって、子どもが追究し続けることができる。

- ・課題を「学級・グループ・個人」の3段階で設定する
- ・課題や追究のよさをモデルとして提示し、課題や追究の見通しをもたせる
- ・見学の視点をカードで示し、目的を明確にした追究活動ができるようにする
- ・課題追究の流れを示し、学習の見通しをもたせる

## V 実践事例

### 1 単元名 「わたしたちのくらしと買い物」

#### 2 単元目標

- ・自分たちの地域の大型店や商店街の様子について調べ、販売等の工夫を理解する。
- ・地域で働く人の心情にふれて、そのよさを知り、親しみをもつ。
- ・地域や家庭の人々の買い物の仕方の工夫を理解する。
- ・消費生活を通して、自分と地域や他の地域とのかかわりに気付くことができる。

### 3 研究主題に迫るための本単元での工夫

#### (1) 課題をもって追究するため工夫

##### ①教師の支援について

- ・課題が明確にもてるように、一人一人の児童に応じて個別的な支援を行う。

・学習の見通しをもたせる      ・3段階に分けて課題を設定させる      等

- ・友達の課題や追究のよさをモデル提示して気付かせる。

・調べる観点や視点の多様性      ・まとめ方の工夫      等

- ・課題追究の過程を図示したカードなどの資料を提示する。

##### ②友達同士のかかわりについて

- ・情報交換に適した少人数のグループ編成をする。
- ・話し合い（＝情報交換）の具体的な手順と方法をカードなどで提示する。

##### ③見学方法・回数について

- ・大型店の見学は「学習方法を学習する段階」として扱い、班ごとに個別指導を行う。
- ・見学や調査を繰り返し行いながら、追究する課題をより明確にしていく。

#### (2) 人とのかかわりを深める工夫

- ①商店や地域の人々と積極的にかかわれるように、見学や調査の機会をより多く設定する。
- ②学習のまとめとして、ポスターやパンフレットを作り、大型店や商店会に掲示してもらう。
- ③商店を手伝う活動を通して、主体的にかかわる体験をする。
- ④友達同士のかかわりを深めるため、一人一人が意見や感想を言えるような場を設定する。

### 4 指導計画（全22時間：本時は11/22）

時	主な学習活動・内容	指導・支援	研究内容との関連 @かかわり *めあて
1 9	大型店の様子を調べて、くふうを見つけよう。		
10	◎前時までの学習や買い物調べのグラフなどを振り返り、地域の商店会について、疑問点や考えていることなどを発表する。 ・大型店にはないよさがあるのだろうか。等 ●発表をもとにして、学習問題を設定する。	◆買い物調べの棒グラフ ○買い物調べの学習を振り返ったり、普段の生活を思い出させたりする。	@友達：疑問点を発表して、学習問題へと絞り込んでいく。
地域の商店会の秘密をさぐる。			
11 12	◎学習問題を意識しながら、班や個人の課題について話し合っ、設定する。  ◎話し合いに基づいて見学計画を立て、カードに記入する。 ・大型店との類似点や相違点 ・商店会の特色 等	○予め、調べたい店ごとに探検班を編成しておく。 ◆VTR（外部講師） ◆探検計画カード ○大型店と比較する視点を意識させる。 ○学習問題→班→個人の課題を明確にさせる。 ○安全やマナーに気をつけさせる。 ○保護者に協力を依頼し、複数回の見学機会を確保する。（放課後等の活用）	@友達：課題の設定について意見を交換し合う。 @教師：課題の設定に対する焦点の絞り方などを聞く。
13 14	◎班ごとに商店会を実際に見学する。		【課題の例】 (学習問題): 身近な商店街の秘密を見つけよう。 ↓ (班): 薬屋さんのサービスを調べよう ↓ (個人): ◎薬以外にどんな物を売っているだろうか ①配達や安売りをするのだろうか ②お店の開いている時間は長いのか



15	◎発表ができるように方法などを考えながら、		@地域：学習の成果を作品にして、
16	見学してきたことをまとめる。 ・地図（見取り図）にまとめる 等		商店会に掲示してもらう。
17	◎商店会の方にも参加していただき、学習発表	◆外部講師	@地域：発表を聞いてもらったり、
18	会を開く。	○事前に打ち合わせておき、 感想やエピソードなども 話していただく。	感想を話してもらったりする。
19	◎発表を基に、商店会の特色等について、話し	○話し合うときの視点を明	@友達：学習の成果を認めながら、
	合う。 ・商店会独自の工夫や特色 等	確にさせる。	話し合って、理解を深める。
20	◎学習したことを基にして、商店会のポスター		@地域：感謝などの気持ちを込めて、
21	やパンフレット等を作ったり、お礼や感想の		作品に取り組んだり、手紙を
	手紙を書いたりして、商店会の方に送る。		書いたりする。
22	<p>買い物をする人たちはどんなことを考えて買い物をしているのだろうか。</p>		

## 5 実践の考察

### (1) 子どもが自分の「課題をもって追究する」ために

まず、課題を「学級→班→個人」の3段階に分けて設定した。単元前半部の大型店の見学は、慣れない活動のため、子どもがうまく自分の課題をもてない傾向があった。そこで、学習問題を追究するための班課題を橋渡しの設定することで、どの子にも無理なく個人の課題をもたせようとした。見学の視点が、ある程度絞れたことにより、個人の課題を設定しやすくなり、有効な手立てとなった。

一方、後半部の商店会見学の際には、子どもたちが前の活動を生かし、個人の課題をすぐにもてたこともあり、橋渡しの班課題の設定の仕方に一層の工夫が必要であった。

次に、友達の学習の仕方のよさに気付かせるため、モデル提示した。これにより、観点や視点を広めたり、まとめ方（表現方法）のよさに気付かせたりできた。だが、視点を広めることに力点を置いたため、課題を質的に向上させるという面では、十分な効果を得られなかった。

さらに、前半部の大型店見学を「学習の仕方を学習する段階」として取り扱うことにより、後半部の商店会見学の参考にさせようとした。このことは、学習活動に見通しをもたせる上で非常に有効であり、見学の計画を立てる話し合いの中で、随所に前の活動を生かしている場面が見られた。また、見学機会を可能な限り多く設定したが、何回も見学を重ねる過程で見学の視点を広めたり課題を深めたりする様子を見ることができた。

### (2) 「地域や人とのかかわりを深める」ために

VTRや実際の見学、外部講師の活用などの具体的・体験的な活動を通して、地域の人々にふれ合う機会を多く設定した。そのため、商店会が町内会の祭りや運動会に深く関係していることを知り、身近に感じることができた。さらに、ポスターやパンフレットなどを作り掲示してもらったり、店の手伝いをしたりしたので、商店会の人々と以前にも増して親密になることもできた。このような活動を通し、地域のよさを知り、親しみをもち、自ら進んで買い物の手伝いをしたり、商店会の人と声を掛け合ったりできるような子どもに育つことを願っている。



## VI 研究の成果と課題

### 〈成果〉

- 地域の見学や観察を重視し、体験活動を繰り返し行った。そのことにより、子どもたちの地域へのかかわりが深まった。また、活動の回数を重ねるごとに、子どもたちが自分の課題を明確にもてるようになっていった。
- 「地域や人とのかかわりを深めるための学習活動表」を作成することで、学習過程の中で多様な活動を設定することができた。それにより、子どもたちは地域をより身近に感じ、進んで地域にかかわろうとしていた。
- 情報交換の場を工夫し、積極的に取り入れた。そのことによって、多様な調べ方や発表の仕方などに気付き、学習に生かそうとする姿が見られた。

### 〈課題〉

- 「地域や人とのかかわりを深めるための学習活動表」を教材の開発に活用したが、さらに使いやすく改善していく必要がある。
- 情報交換をすることで自分の課題がより明確になり、課題を解決していけると考えて「意見交換の具体的な手順と方法」を提示したが、さらに内容を工夫するの必要を感じた。友達同士で考えを出し合って、深めたり広げたりするための支援は、今後も工夫していく必要がある。

### 研究主題

### 〈第4学年分科会〉

### 子どもが自分なりの課題をもつための学習活動の工夫

## I 研究主題設定の理由

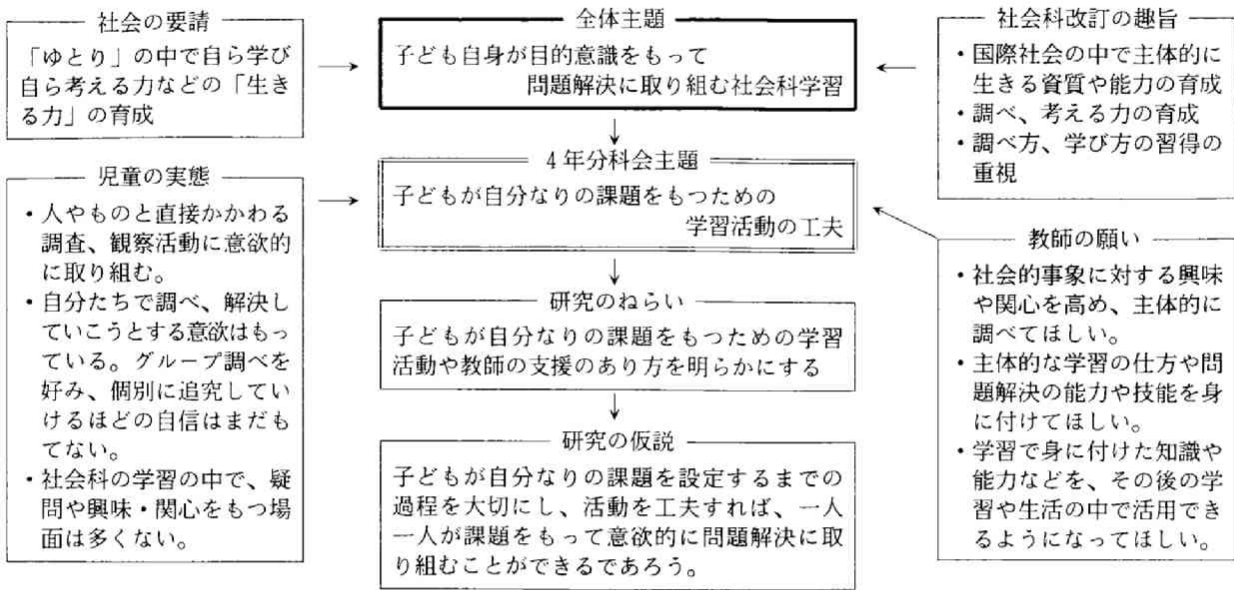
全体研究主題である「子ども自身が目的意識をもって、問題解決に取り組む社会科学習」を受け、本分科会では、子どもが「自分なりの課題をもつ」ことが「子ども自身が目的意識をもつ」ことにつながると考え、そこに視点を当てて研究することにした。

「自分なりの課題」とは、単元の目標に迫る大きな学習問題を解決するための一人一人の切り込み口となるものである。学習問題を解決するために自分は何について調べるのか、そのためにどんな活動をするのかを子どもが自ら考え、追究の見通しをもつことが、私たちの目指す自分なり課題づくりである。そして、課題づくりの活動を繰り返すことで主体的な学習の仕方が身に付き学習への意欲を高めることができると考える。

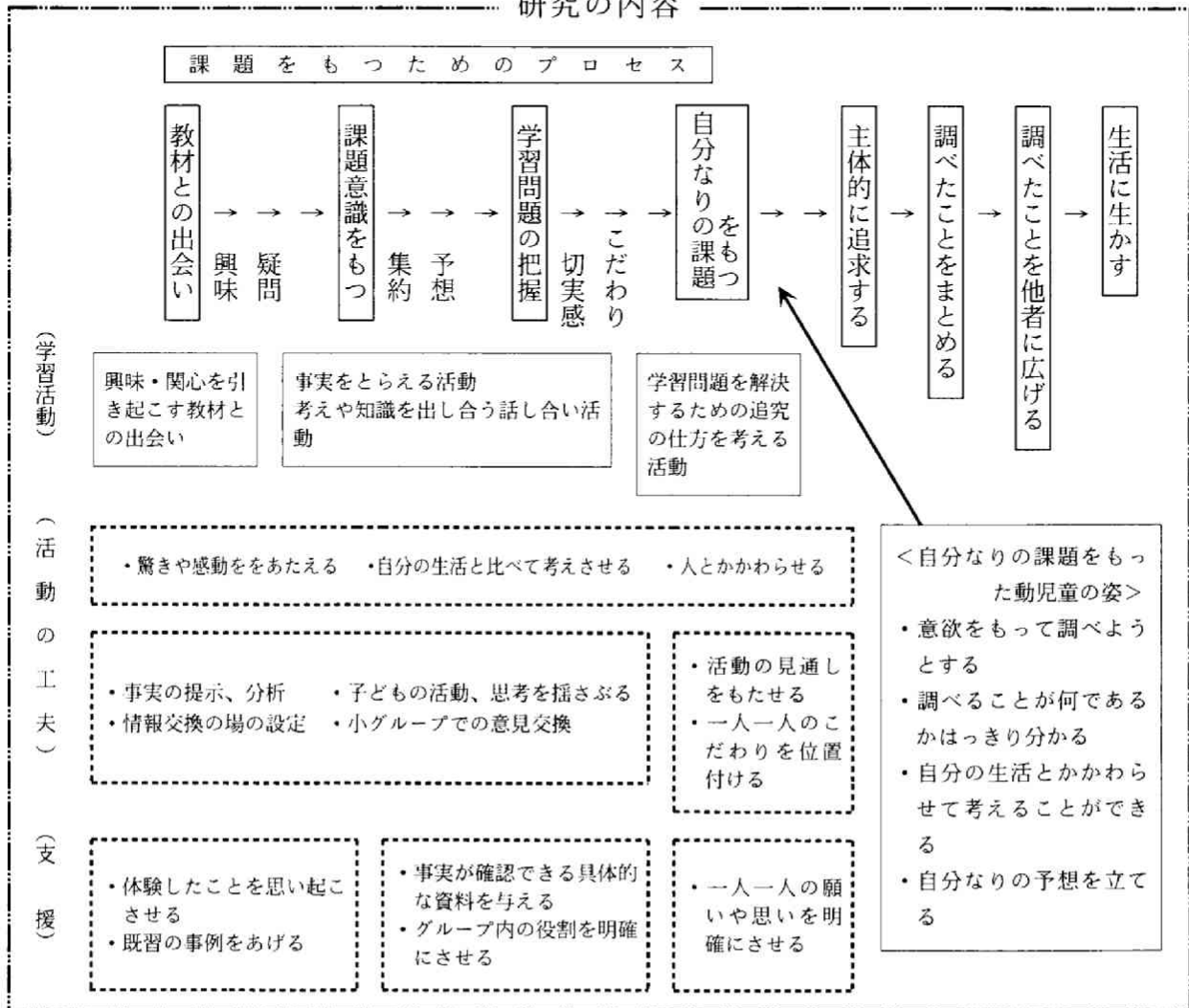
しかしながら4年生の子どもたちの実態を見てみると、調べる活動や調べたことをまとめる活動には喜んで取り組むが、これらの活動を進めるためのエネルギーとなる強い疑問や興味・関心をもつことについては必ずしも十分とは言えない。即ち、課題意識が弱いということがあげられる。これは、生活経験の不足や受け身になりがちな生活から、社会的事象を自分の生活と結び付けて考える力が十分育っていないためと考えられる。社会的事象に対して自分とのかかわりを見い出すことができなければ、問題解決への意欲や切実感をもつことは難しい。そのため、身近な地域や施設、そこで働く人などの教材に出会っても、単なる事実調べの活動で終わってしまう子どもが少なくないのが現状である。

以上のことから私たち4学年分科会では、子どもたちが学習問題について自分なりの課題を設定し、その追究の仕方を明確にすることができれば、意欲的に問題解決に取り組めるのではないかと考え、本主題を設定した。そして、研究の内容を子どもたちが教材と出会い、興味・関心や疑問をもち、学習問題を把握して、自分なりの課題をもつまでの学習過程に絞り取り組んだ。

## II 研究構想図



## 研究の内容



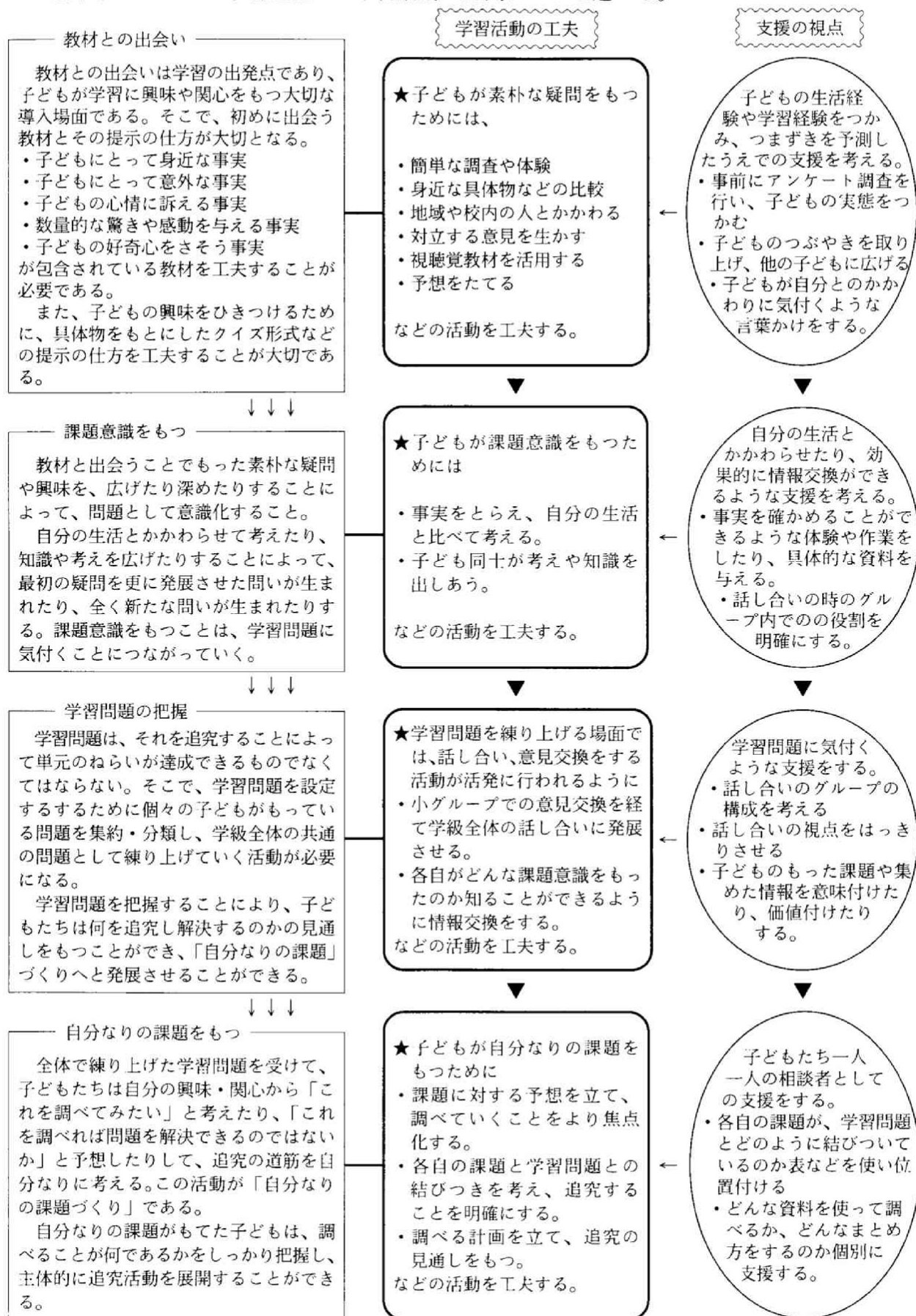
## 目指す児童像

- ★追究する自分なりの課題を明確にもち、観察・調査・体験等の活動を進んで行う子ども
- ★社会的事象と自分との関連に気づき、生活とかかわらせていこうとする子ども

### Ⅲ 研究の内容

子どもは、教材と出会うだけで自分なりの課題をもてるわけではない。課題をもつまでの学習活動に時間をかけ、活動を工夫していくことで、自分なりの課題をもつのである。

以下、それぞれの学習過程での学習活動の工夫について述べる。



IV 実践事例 「東京都をほかの学校の友達にも紹介しよう」(16時間)

- 1 小単元の目標 東京都全体の地形やおもな産業・都市・交通網などの特色を調べ、人々の生活が他地域や外国とも深くつながりを持って成り立っていることを理解できるようにする。
- 2 指導計画と授業の実際

	学 習 活 動 と 内 容	☆支援 ◎評価	資 料
教材との出会い・問題意識をもつ 4時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東京都のいろいろな地域に住むの4年生について知る。(身近な感じになる。)</li> <li>○東京都の地図を見て、行ったことのある場所や知っている場所を探して発表する。</li> <li>○東京都は、いったいどんなところなのか調べる。               <ul style="list-style-type: none"> <li>*東京都の区・市・町・村の位置</li> <li>*東京都の地形のようす</li> <li>*東京都のまちと交通</li> </ul>               以上3つの中から自分の一番関心をもったところを調べる。             </li> <li>○グループごとに分かれ、さらに、東京都の特色を相談して発表する。</li> <li>○7地区7校がお互いの住む地域について振り返る。</li> <li>○パンフレットから地域によるいろいろな特徴をあげてみる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆東京都にはいろいろな地域があることを知る。</li> <li>◎自分の知っている場所を発表することができたか。</li> <li>☆自分なりの表現方法でまとめられるようにする。</li> <li>◎自分の知らなかったことを友達の作品からとらえ、知ることができたか。</li> </ul>	<p>「わたしたちの東京」 地図帳</p> <p>「自分のワークシート 友達のワークシート」</p>
問題意識をもつ 3時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○4つの地域ごとにどんな特色をもっているか。「くらし」を調べていくことで考えてみる。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・4つの地域の特色を写真から考える。</li> <li>・東京都のどの場所であるかを考える。</li> <li>・ワークシートに場所の予想を書く。</li> <li>・答えから各地域の特色を知る。</li> <li>・自分が興味・関心をもった写真を選ぶ。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆一地域に気候・産業・土地の様子などが入っているようにする</li> <li>☆自分なりに既習の学習を生かして理由を考え、書くようにする。</li> </ul>	<p>地域の特色を示したカラーコピー写真</p> <p>「わたしたちの東京」</p>
学習問題の把握 前時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>東京都のいろいろな地域の人々は、どんなくらしをしているだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○くらしとは何を指すか話し合う。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・土地の利用の様子</li> <li>・産業の様子</li> <li>・交通の様子</li> </ul> </li> <li>・12カ所(各地域3カ所ずつ)の中から、自分の調べたい所を一つ選ぶ。</li> <li>・「土地利用」「産業の様子」「交通の特色」などを観点として、調べることを選ぶ。</li> <li>○どの場所の何を調べたいかを短冊に書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆みんなでいろいろな地域のことを調べ、選んだ地域ごとにまとめ発表し、最終的に全員で東京都における様々なくらしを知ることを示す。</li> </ul>	
自分なりの課題を	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域と内容に分かれた表のどこに自分の調べたいことがあたるか考えて貼る。</li> <li>・どの枠になるかよく考えて貼っていく。</li> <li>&lt;表1&gt;</li> <li>○同じ地域のグループでお互いの調べたいことを知り、内容を確認する。</li> <li>○調べていくに値する十分な疑問であるかどうか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと相談したり、先生に聞いたりして貼ってよいこととする</li> <li>☆地域ごとにまとめたものを発表</li> </ul>	<p>今までにまとめたワークシート</p> <p>掲示されている東京都の地図や4つの地域の写真</p>

も つ	<p>かお互いに吟味する。</p> <p>○簡単には、解決できなかったことを自分なりの課題を設定する。</p> <p>○自分なりの課題ができあがったら、必要な資料やまとめ方などを考え、学習計画を立てる。</p> <p>・必要な資料・調べる方法・まとめ方 など</p> <p>○グループごとにお互いの進みぐあいを確認し、次の時間の自分の目標を考える。</p>	<p>することを伝えておく。</p> <p>☆すぐに分かることなどは、教師や子ども同士で教えあえるようにする。</p> <p>◎簡単な疑問は、自分で解決したり、友だちと相談したりして解決し、真の学習課題をつくることができたか。</p>	「わたしたちの東京」地図帳
本 時			

東京都の人々のくらしを調べよう（きみは、どこかな？）

地域	低地	台地・丘陵地	山地	しま
くらし				
産業				
交通				
土地利用				
その他				

〈分類表〉  
自分の課題を項目の分類に従って該当する欄に貼る。

課題を追究する 6時間	<p>○自分が設定した課題を調べていく。</p> <p>○調べたことを地域（グループ）ごとに発表し、それを見て東京都の特色についてまとめていく。</p> <p>○東京都が他の地域や外国とつながりはないか考えてまとめる。</p> <p>○他の地域とは違う「東京都ならではのものは、なんだろう」考える。</p>	<p>☆お互いに資料の交換をしたり、教師が集めた資料を提示したりしながら学習を進める。</p> <p>☆よく分からないことは、調べた本人に聞ける時間もつくる。</p> <p>◎調べたことで東京都のくらしぶりをつかむことができたか。</p>	<p>各地域の副読本地図帳</p> <p>「わたしたちの東京」</p> <p>自分たちで集めた資料</p>
まとめ 3時間	<p>○「東京都」をたくさんの人たちに紹介する。</p> <p>・今まで学習してきたことをもとに、東京について他の学校や家族に紹介するパンフレットをつくる。</p>	<p>◎今までに学んできたことをふまえて、分かりやすいまとめかたができたか。</p>	<p>今までにまとめたワークシート</p> <p>「わたしたちの東京」地図帳など</p>



### 3 考察

#### (1) 他の区市の学校とつながりをもつ（教材との出会い）

学校の様子をビデオレターで知ったり、自分の地域を紹介する壁新聞を作成したりした。その結果、東京都の学習への意欲が高まった。さらに、「東京都の他の地域を知りたい。」「自分の住んでいる地域と同じ点や違いを知りたい。」ということに発展していった。

#### (2) 課題設定でのこだわり（学習問題の把握）

自分が関心をもった地域を調べる学習では、「自分の調べた地域にこだわりがある。」「同じ地域を調べている友だちと協力する」という場面が多く見られた。

#### (3) 課題の表への分類（自分なりの課題をもつ）

「人々のくらし」を産業・交通・土地利用という観点に分け、地域を4地域に分類した。その両方を合わせた分類表をつくり、自分の課題がどこに当てはまるか考えさせた。自分の調べたいことが友達の課題と比べることで明確となった。また、学習問題を解決する上での自分の役割を意識し、友達と協力して調べることに役立った。

#### (4) 自分なりの課題の設定（自分なりの課題をもつ）

一人一人が自分なりの課題を設定することができた。しかし、課題の内容が細かくなりすぎたり、地域が広がりすぎる結果となった。そのため、教師の支援が十分にできなかった。

#### (5) 課題設定のための資料（課題意識をもつ）

カラーコピーを使い、各地域の特色をつかませ、課題を設定することとした。しかし、写真では、部分的な特色しか表現できず、地域の把握には不十分であった。ビデオや文書資料などの提示の工夫が必要である。

## V 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

- 活動の流れを提示し、学習のゴールを明確にすることにより、児童が何のために何を学習していくのかという見通しがもて、興味・関心が持続するようになった。
- 自分なりの課題をカードに記入したり、分類表に自分で貼ったりしていくことにより、学習問題の中の自分の課題の位置や意味を把握したり、友達の課題とのつながりを視覚的に確認することができた。また、追究の段階でも、児童相互の情報交換のために役立てることができた。
- 学校内の教職員・地域の人・いろいろな施設で働いている人（外部講師）との交流や、他の学校の児童との情報交換（ビデオレター・自分たちの住む区や市や町の紹介）及びクラスの児童相互の情報交換は、児童の調べようという意欲を高め、その意欲を持続させる上で大変有効であった。

### 2 今後の課題

- 友達同士で話し合いながら、自分の課題を意味付け、深めることができるような情報交換の方法をさらに研究する。
- 調べようという意欲を高めるために、指導内容を精選し、資料を豊富にそろえた上で指導していく必要を感じた。
- 自分なりの課題を持たせるための、個別的な支援の視点についてさらに研究を深めたい。

## 主体的に調べ、自らの考えを深めていく学習活動の工夫

## ——子どもがつくる学習計画を生かして——

## I 主題設定の理由

第5学年の社会科は、産業や国土の様子など学習対象が日本全土に広がり、統計や年表などの基礎的資料や文書・図書資料を活用して追究活動を展開することがより多くなる。また、「国民生活を支える産業の意味」など、事象の理解だけでなくその背景にある意味や関連に気付くことが目標となっている。そのためには、児童自らが課題をもち、必要な情報を適切に収集・整理・加工・発信する学習活動、調べ考える力を育てる学習が求められている。

ところが、児童の実態を見ると自分とのかかわりで事象をとらえることが十分できていなかったり、調べ活動を行っても表面的な事実理解にとどまり、意味の理解にまで至らないことも多い。また、自分から社会的事象に対して進んでかかわり、問題解決に取り組む態度が育っていない傾向もみられる。

しかし、自分の身近なものや人とかかわりをとおして学習問題に気付かせたり、学習過程に体験的な活動を取り入れると、追究活動に興味をもち、意欲的に取り組み続ける。また、友達と考えを交流し合う活動を工夫することによって、自分なりの課題をもち、新たな視点に気付いたり、自分の考えを深め広げたりすることができる。さらには、学習問題の解決に見通しがもてたとき、意欲的に追究するようになる。このような指導を工夫することこそ、目的意識をもって、問題解決に取り組む児童の育成には大切であると考えた。

さらには、計画的に問題解決に必要な情報を集め、問題解決に必要な情報を選択できる力を育成することも重要であると考えた。

以上のことから、本分科会では、共通研究主題の「子どもが目的意識をもって、問題解決に取り組む社会科学習」を、自ら学習計画を立て情報を収集し、追究の見通しをもって主体的に問題解決に取り組む学習をとらえ、研究主題を「主体的に調べ、自らの考えを深めていく学習活動の工夫 —子どもがつくる学習計画を生かして—」と設定した。

## II 主題のとらえ方

主体的に調べ、自らの考えを深めていく児童の姿を以下のように考えた。そして、◎の項目について重視することとした。

## ◎ 自分なりの学習問題を考えられる

- ・ 学習問題に対して予想を立て、何を調べるかなど目的を明確にもって追究できる
- ・ 確かな事実認識を基に、自分の調べたいことを見つけることができる

## ◎ 学習経験を生かし、学習問題を調べる内容や解決の方法を考えることができる

## ◎ 学習問題を解決するために、必要な情報を収集・活用できる

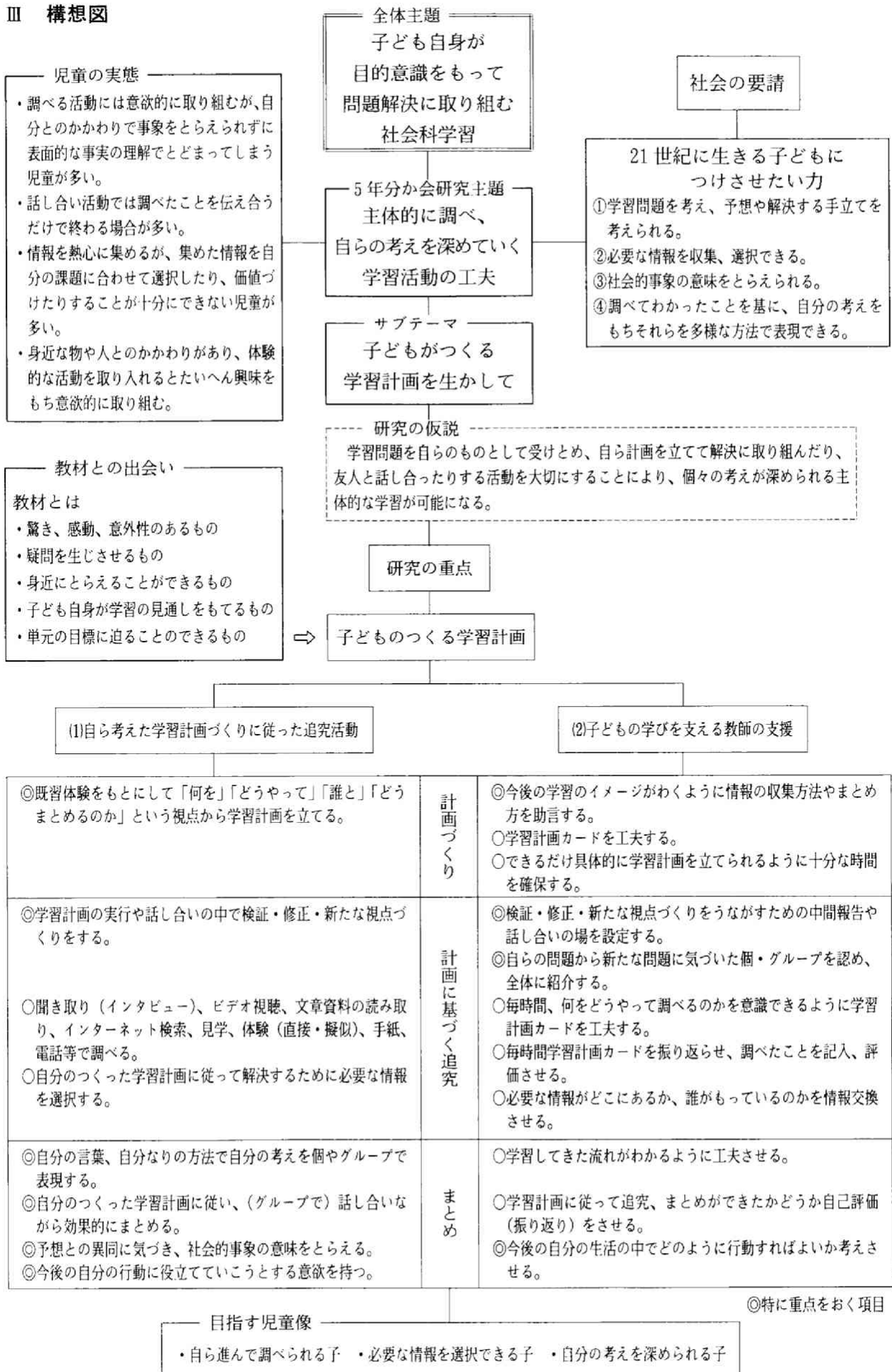
- ・ 集めた情報のなかから問題解決に必要な情報を適切に選択できる
- ・ 調べたことや自分の考えを自分の言葉で表現したり、多様な方法で表現したりできる
- ・ 「見える事実」を比較・関連付けて、「見えない事実」をとらえることができる

## ◎ 情報を友達と交換・検討し、考えを広げ、深めることができる

- ・ 調べたことから新たな学習問題に気づき、さらに調べようとする



### III 構想図



#### IV 研究の内容

##### 1. 子どもがつくる学習計画の必要性

主体的に追究することによって個々の考えを深めるためには、自ら計画を立て、学習問題を解決することが大切である。

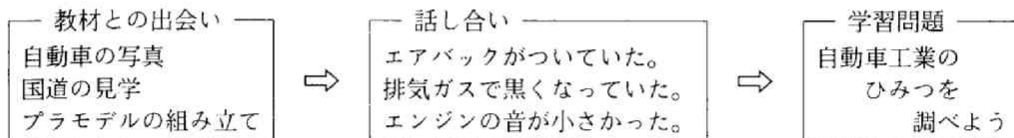
自分たちで学習計画を立てていくと、例えばいろいろの種類魚から、いくつかを選んだり、獲り方に焦点を当てて調べるなど、自分の考えを生かして調べ学習を主体的に進めていくことができる。

また、自分が学習を進めていくうえで調べたり、情報交換したり、まとめたりする活動の中で、自分たちの調べる視点、方法、まとめ方のよさをまわりの友達と認め合い、評価し合うことによって再確認でき、自信をもって計画を進めることができる。

##### 2. 学習問題づくり

学習問題を作るにあたっては、教材との出会いが大切である。教材には、**驚き・感動・意外性・身近なもの・見通しのもてるもの・目標にせまるもの**といった要素が必要である。

自動車工業の学習では次のような流れで学習問題をつくっていった。



次の学習計画づくりの段階でも共通して言えることであるが、課題意識をじっくりと共有させるために学習問題や学習計画をつくる時間を十分に確保する必要がある。

##### 3. 学習計画づくり

はじめからすべての計画を子どもに任せるのではなく、小単元の一部（2～3時間程度）から少しずつ慣れさせていくのがよい。例えば、間に中間報告会をはさんで3時間分ずつ2回に分けて計画を立てさせるなどの方法がある。そして、その計画は子どもが見通しをもって進められ、後の修正も書き込めるように工夫した学習計画カードに記入させる。グループの学習問題を受けて、子どもは、調べることや順序、それに対応する調べる方法も自分なりに考えることができる。その際、学び方への助言や情報ガイドブックなど、子どもの主体的追究を助ける資料などを工夫することも大切である。

「何を」「どうやって」「誰と」「どうまとめるか」という4つの要素がわかっていると1時間ごとの調べ学習をスムーズに進めていくことができる。また、子どもたちも次回までに何をやり、何を準備しておくかということがわかり、見通しをもって学習を進めていくことができる。教師からもそれぞれのグループ・個に対して、例えば伝統工業の学習では「資料を集める。」と書いた児童に対して、「どこに行ってどんな資料を集めておけばよいですか。」と問いかけ、「本で調べる。友達のお父さんに聞く。」と答え、より具体的な計画を立てることができた。

##### 4. 計画に基づく追究

ここで大切なことは、追究意欲の持続、計画に基づく活動の振り返りと修正、学び合いの場の設定である。

追究意欲を持続させるために進行状況を報告し合ったり、中間報告会を行ったりする。中間報告会では、調べてわかったこと、そこから自分が考えたことの中で共有できると思うことを情報交換し、課題を明らかにしたり、自分の活動を振り返らせたり、修正させたりしていく。

公害の学習では、自分が調べている本の中に友達の課題にかかわる情報があると、互いにそれらの本を交換して調べていた。友達から必要な情報を得、いろいろな情報の中から自分にとって必要な情報を選択することも大事であることに気付いていた。

##### 5. まとめ

調べたことをまとめていく段階で、わかったことに対する自分の考えを書く欄を学習カードにつくっておき、それらを累積することで、自分の言葉でまとめられるようにする。

工業のまとめの発表では、見学した工場の方に学習に参加してもらい、自分なりの言葉でまとめた考えの発表に対する講評をもらった。自分なりの考えをまとめる際に、カードにこれまで書いた考えを「よいところ」「こうすればもっとよくなるのでは」といった視点から整理するとよいと助言したところ、子どもは、「製品がたくさん売れるようにポイントカードを作ればよい。」などの自分なりの言葉で考えたアイデアが多く発表された。それに対して、工場の方からは、「子どもの考えでも大変参考になるので、大切にします。」などの講評をいただき、自分の言葉で表現することの大切さを実感し、自信をもつことができた。

## V 実践事例

1. 小单元名「公害をふせぐ努力」
2. 小单元の目標 公害の問題について人々の苦しみや解決のための努力について調べ、健康に生活していくために公害をなくすことが大切であることに気付く。
3. 学習計画（全6時間扱い・本時2時間目）

	主 な 学 習 活 動		学習問題づくり
1	学習問題づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体で話し合い、日本の公害や環境について調べる個別の課題を考える。</li> <li>個別の学習問題から全体の学習問題をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水俣病の拡大写真（教科書）を提示する。</li> <li>写真から気付いたことをもとに、調べたいことについて話し合わせる。</li> <li>話し合いの結果を重視し、学習問題は子どもの言葉で考えさせる。</li> </ul>
2 本時	学習計画づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>同じ課題の者同士で集まり、グループを編成する。（一人でも可）</li> <li>これまで調べた学習の経験をもとにグループ（個）で話し合い調べ、まとめていく計画を立てる。</li> <li>学習計画カードに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「何を」「どうやって」「誰と」「どうまとめるか」を話し合わせる。</li> <li>各公害病の被害の様子、防ぐための対策や努力、自分たちにできることなどについて調べ自分たちの考えも含めてまとめることを助言する。</li> <li>情報の収集方法やまとめ方の例をいくつか示し、自分たちで考えさせる。</li> </ul>
3 4 5	調べる まとめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの立てた計画にしたがって調べたりまとめたりする。</li> <li>聞き取り（インタビュー）、ビデオ視聴、文章資料の読み取り電話、FAX、インターネット等で調べる。</li> <li>必要があれば自分たちの計画の検証、修正、新たな視点づくりをする。</li> <li>計画にしたがってどこまで、どのように調べてきたかを報告する。（中間報告会）</li> <li>友達の報告を聞き、必要があれば自分たちの計画の検証、修正新たな視点づくりをする。（中間報告会）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習問題や学習計画表を掲示し、常に学習問題を意識させ、それを解決していく方向で進めさせていく。</li> <li>解決するために必要な情報を共有できるように助言する。</li> <li>調べている段階での他のグループとの情報交換を大切にす。</li> <li>学習計画を修正したり新たな視点づくりをした場合、計画カードの中に書き加えさせる。</li> <li>自らの課題から新たな課題に気づいた個、グループを全体の場で評価し、他への刺激とする。</li> </ul>
6	発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの調べてきたこと、それに対する自分たちの考えを友達にわかるように表現する。</li> <li>自分の調べたこととの関連を考えながら友達の発表を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の自分の行動に役立てていこうとする意欲をもたせる。</li> </ul>

4. 評価 公害の問題について人々の苦しみや解決のための努力について自分で立てた学習計画にしたがって調べることができたか。  
健康に生活していくためには、公害をなくすことが大切であることに気付いたか。

5. 本時の指導（第2時）

- ①本時のねらい ○同じ課題の者同士で集まってグループを編成し、自分たちの学習計画を立てる。
- ②本時の展開

主な学習活動	□支援・☆評価
○子どもの作った学習問題を確認する。	公害をなくすためにどのように努力してきたのだろう
○本時の課題を確認する。	グループで調べたりまとめたりする計画を立てよう
○同じ課題の児童で集まり、グループを編成する。	□前時につくった課題ごとのグループで集まり、「何を」「誰と」調べていくか、個々に話し合わせる。
○グループで話し合い、学習計画を立て、グループごとに学習計画カードに記入する。	☆同じ課題でグループを編成できたか。 □グループに1枚、学習計画カードを配布する。 □「何を」「どうやって」「どうまとめるか」をグループで話し合わせる。 □各公害病の被害の様子、防ぐための対策や努力、自分たちにできることなどについて調べ、自分たちの考えも含めてまとめることを助言する。 □情報の収集方法やまとめ方の例をいくつか示し、自分たちで考えさせる。
○次の時間から自分たちの計画に沿って学習を進めていくことを確認する。	□情報の収集方法やまとめ方の例をいくつか示し、自分たちで考えさせる。 ☆今後の学習計画を立て、カードに記入できたか。

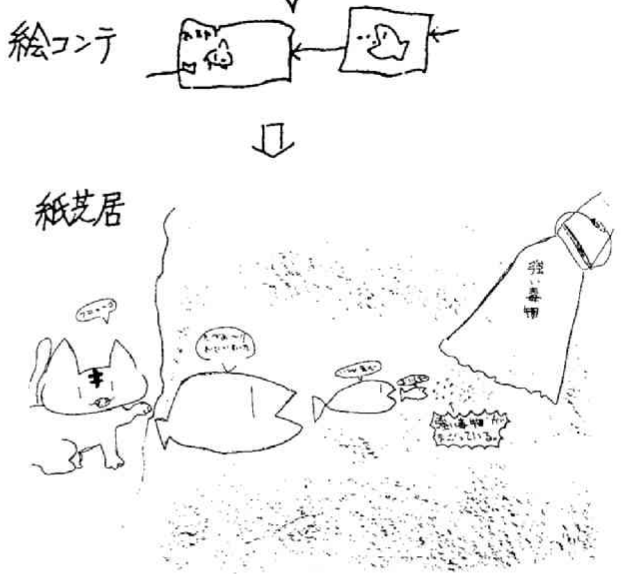
- ③評価 ○同じ課題の者同士でグループを作り、今後の自分たちの学習計画を立てられたかを話し合いの様子や学習計画カードでとらえる。

(学習計画カードの例)

メンバー		全体学習課題			
		公害病の原因、様子、せいぼ人などについて			
		個別学習課題			
		水俣病についてしらべよう。			
日	調べること・まとめること	いつ	どこで	方法	やっておくこと
1	原因とまじめ しょうじょう	10月5日	教室	本 しりょうしゅう きょうかしょ しんりん	本をかる しりょうを おつめる えをかき
2	せいぼん まじめ 公害病の被害 水俣病以外の 公害病について 調べたこと 【中間報告会】さいご の発表	10月12日	〃	〃	〃
3	けいご まじめ	10月16日	〃	〃	〃
まとめの方法		紙しばい(1人3~4役)加ぼうし10枚			

教師のコメント

紙芝居を作る計画では2枚の絵コンテで表していたが、食物連鎖を入れて考えるという助言によって、1枚の紙芝居に水俣病の発生原因を的確に表すことができた。



調べることについて関連性がわかるようにと助言したところ、水俣病以外の公害病について種類のみを調べるようにし、順番もつながりが見えるように変更した。

6. 子どもの変容

毎時間終了後、教師の支援としてコメントを書き、次の時間に配布した。それに応えることによって計画を一部修正していた。その結果、学習計画は1時間ごとに少しずつ変化し、小単元の目標により迫ることができた。

## VI 成果と今後の課題

### 1. 成果

- ◎自ら小単元の学習計画を立てることで、学習の見通しをもって追究するようになった。また、計画を立て友達と話し合う中で課題意識の深まりがみられた。
- ◎コンピューターで検索する、図書室で調べる、手紙を出すなどの追究方法を繰り返し行い、友だちと交流することで、自分の目的にあった多様な調べ方を活用できるようになった。
- ◎中間報告会をすることで追究意欲を持続させるとともに、軌道修正したり追加したりすることができた。
- ◎学習問題を自らのものとして考え、友だちと話し合う中で、個々の考えが深まった。
- ◎学習を進めていくうえで、調べながら必要に応じてまとめたり、多様な表現方法でまとめたりすることができるようになった。

### 2. 課題

- ◆一次から二次の調査活動の時間で、間隔を取る方が追究に有効であるが、追究時間の確保についてはさらに研究を進めていく必要がある。
- ◆教材との出会い（教材の選択・提示方法）についてさらに吟味を重ねていく。
- ◆学習計画の立てさせ方、効果的な支援・評価の方法についてさらに研究を深めていきたい。

## 研究主題

〈第6学年分科会〉

### 子どもの追究意欲を高める学習問題づくりの工夫 ～人物の働きや生き方に目を向けて～

#### I 主題設定の理由

子ども自身が目的意識をもって、問題解決に取り組むためには、社会的事象を自分と関連づけて考えたり、そこに登場する人物の立場に立って考えたりしながら、その意味やかかわりなどについて進んで追究しようとする意欲が必要である。

6年生の学習では、歴史・政治・国際理解と学習内容が多岐にわたり、取り上げる事象も、時間的、空間的に広範囲にわたる。そのため、児童にとっては、社会的事象を身近にとらえにくく、興味・関心が高まりづらい面がある。また、学習においても、事象を網羅的に取り上げ、知識理解に重点が置かれたり、説明や文章資料の読み取り中心の単調な活動になったりする傾向が強い。それらのことが、子どもの追究意欲を低下させ、社会科嫌いの子どもにしてしまう一つの要因となっている。

子ども一人一人が意欲をもって社会的事象を追究し、その意味をより広い視野から考えることができるようにするためには、学習問題づくりが大切だと考える。それは、学習問題が問題解決を図っていくテーマであり、主体的な追究の出発点だからである。ただ、事象から生まれた素朴な問いを集約したものではなく、人物の願いや考え、時代の様子をとらえることができるとともに、子どもの思考に沿っており、解決の見通しがもてる学習問題であれば、子どもたちは意欲をもって追究していくと考える。

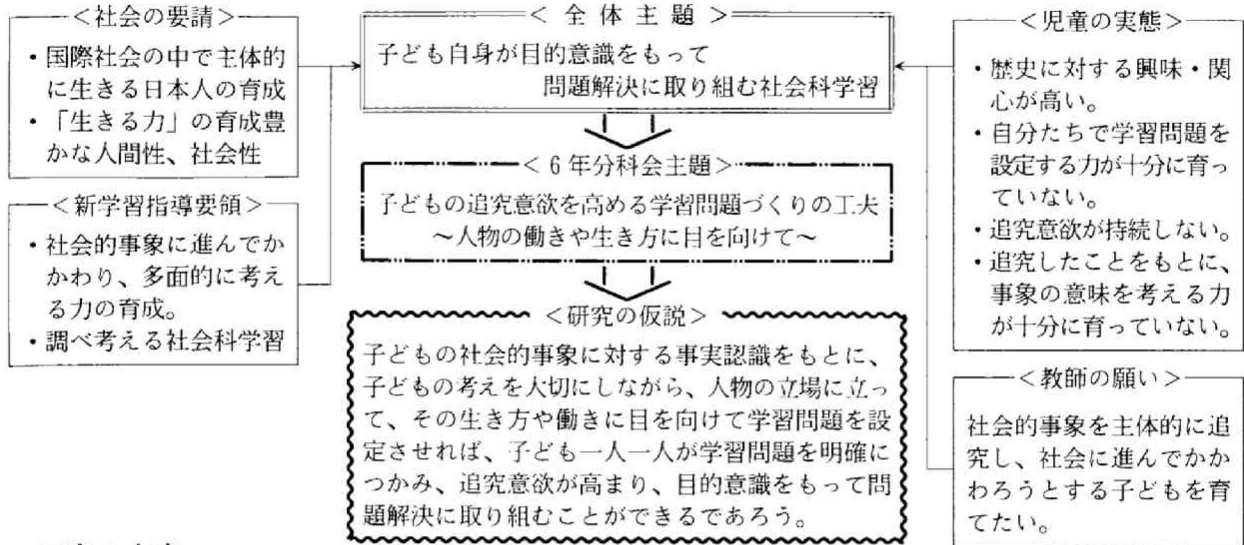
そのためには、「①取り上げる事象の選定」、「②学習過程」、「③学習活動」の三つを関連的に考え、工夫していくことが重要である。

さらに、学習内容の面から考えると、6年の学習内容は人物の働きや生き方に迫る内容となっている。昔の時代を精一杯生きた人や、今の時代をよりよく生きようと努力している人々の働きや生き方に目を向けさせることは、児童にとって事象を身近に感じさせ、追究意欲を高めることができると考えた。

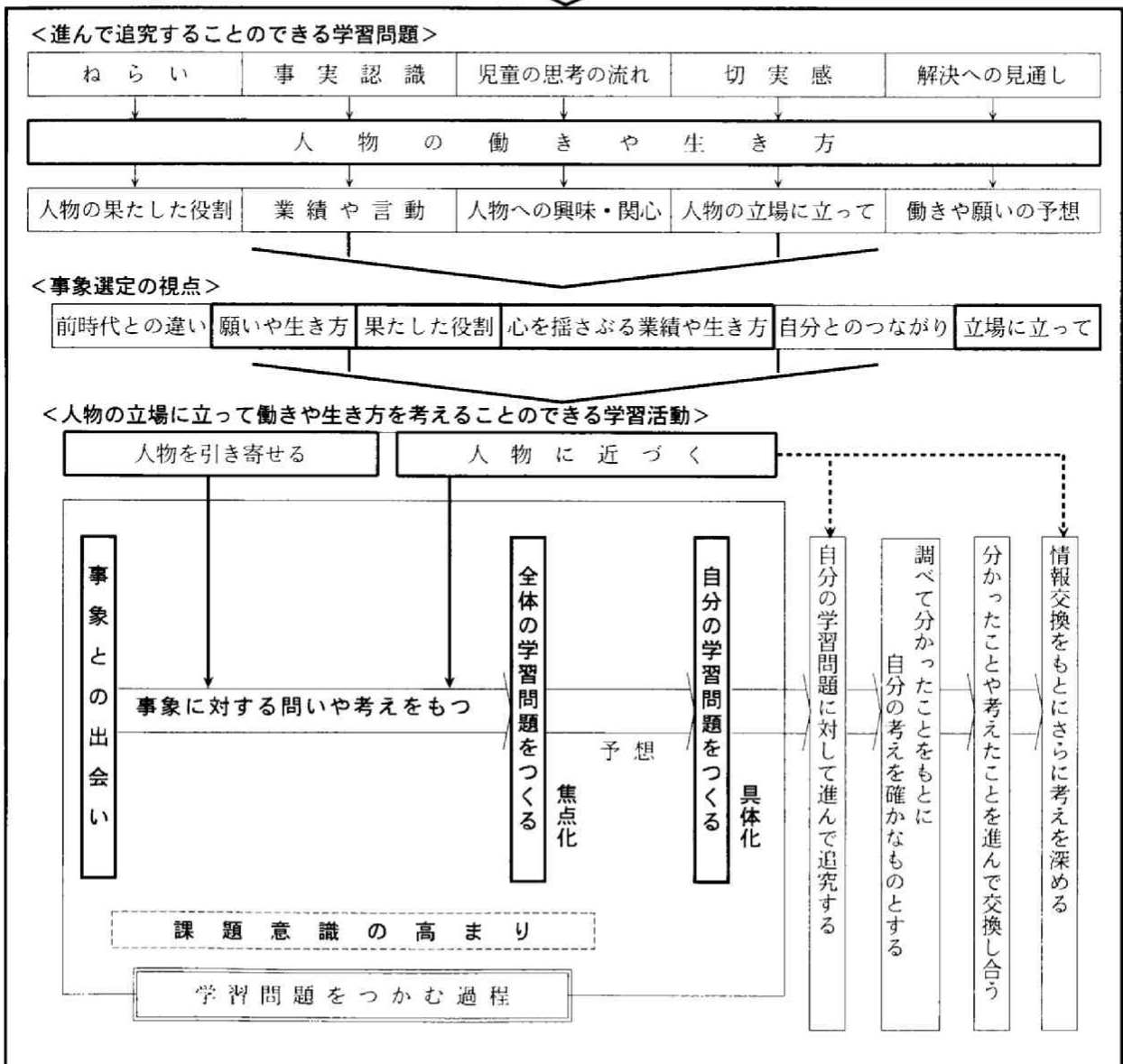
そこで、「子どもが追究意欲を高めることができる学習問題づくりの工夫～人物の働きや生き方に目を向けて～」というテーマを設定して、授業実践を中心に組み立てていくこととした。



## II 研究構想図



### ＜研究の内容＞

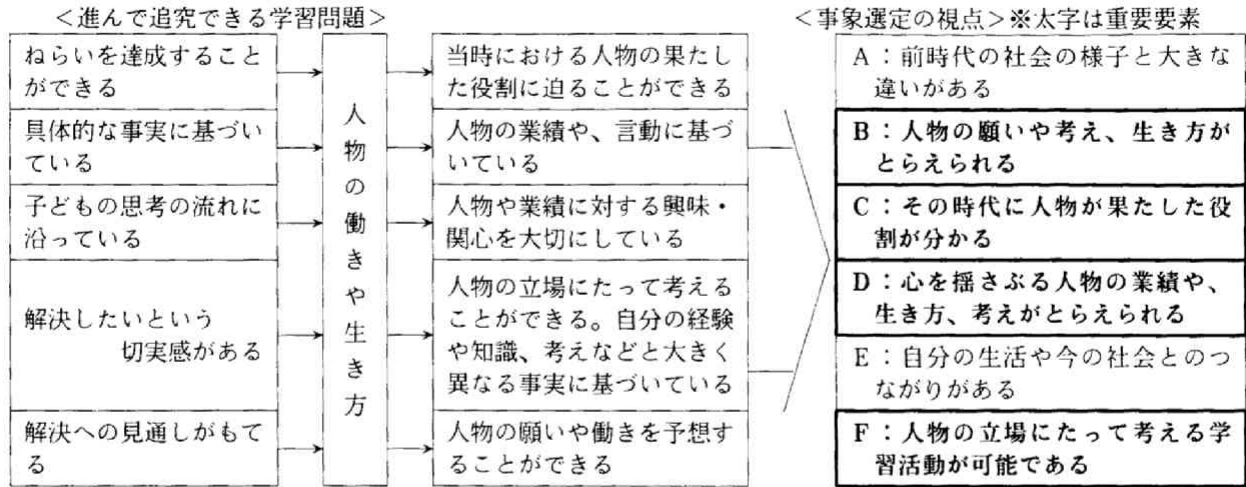


学習問題を明確につかみ、課題意識をもって意欲的に社会的事象を追究し、事象の意味を考える子

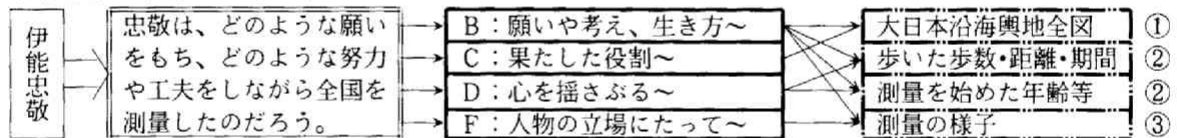
### Ⅲ 研究の内容

#### 1 人の働きや生き方に目を向けて学習問題作りのできる事象の選定

子どもが進んで追究することのできる学習問題を次のようにとらえ、それを基に、人物の働きや生き方に目を向けた学習問題の要素を左下のように考えた。このような学習問題をつくるには、その基となる疑問が生まれてくるような社会的事象を提示しなければならない。そこで、前述の要素に対応させて右下のような社会的事象の選定視点を設定し、事象を選定するとともに、その順序を考えた。

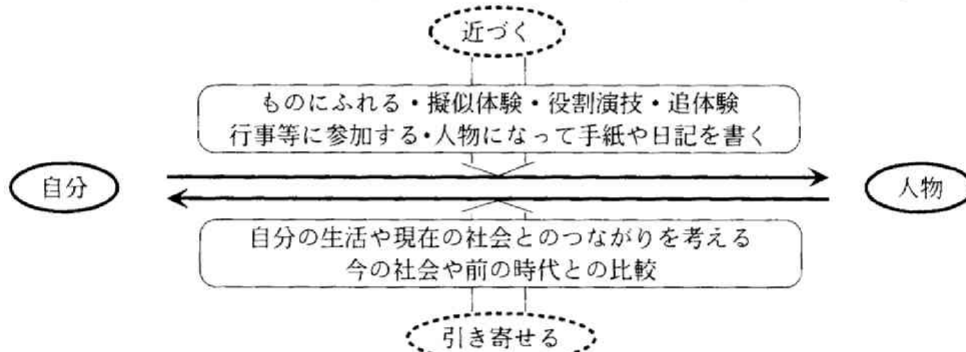


＜「伊能忠敬と学問の発達」の場合＞



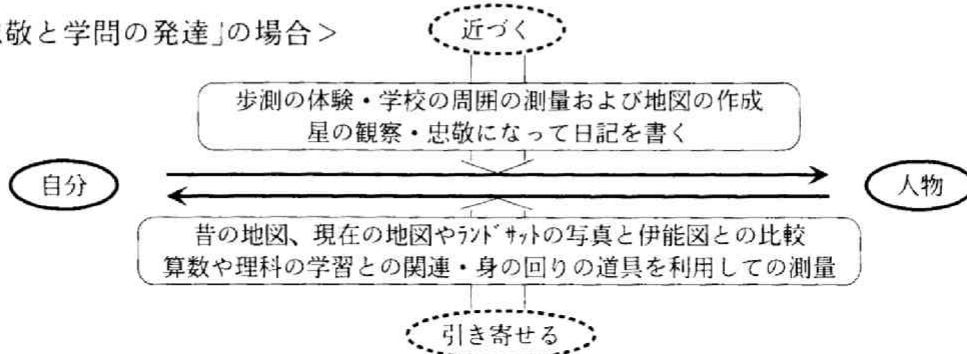
#### 2 人物の立場に立って、働きや生き方を考えることのできる学習活動の工夫

はじめに出会った事象から人物の働きや生き方に目を向けるようにするためには、子ども一人一人がその人物の立場にたって考えることのできる学習活動が必要不可欠である。そこで、学習問題をつかむ過程にも、人物の立場にたって考える活動を工夫する。



また、上記の活動は学習問題をつかむ過程だけでなく、追究や考えを深める過程においても有効である。特に実践例のように一人の人物を一つの業績で追究していく場合は効果的である。

＜「伊能忠敬と学問の発達」の場合＞





IV 実践事例「伊能忠敬と学問の発達」

1 小単元のねらい

伊能忠敬の業績や測量の努力や工夫、その考えや生き方を中心に、蘭学や国学について調べ、新しい学問が発達したことをとらえるとともに、社会の様子について考えることができる。

2 学習計画と授業の実際

過程	時	ねらい	主な学習活動と内容	資料	K児の学習の様子	S児の学習の様子
出会い 問いや考えをもつ	1	伊能図や年表の読み取り、歩測の体験を通して伊能忠敬の業績や考え、生き方について関心を高める	○伊能図と過去・現在の地図を比べる。 <b>引き寄せる</b> ○忠敬の人物年表から気付いたことや考えたことを話し合う。 <b>引き寄せる</b> ○歩測で距離を測る。 <b>近づく</b>	伊能図 江戸初期の地図 現在の地図 忠敬年表	・伊能図の方が限りなく現代に近い。すごい。 ・今とほとんど変わらない。島まで… ・優しく、えらい人。 ・歩いて距離を測り地図を完成させた。(努力家) ・74歳で死ぬまで地図を完成させようとするなんてすごいと思った。 ・暦学に対する気持ちが強い。 2mぐらいだから1/18違ったわけだ。忠敬はそんなに正確なのかと思った。1kmを999mとかにするわけだからとてもすごいと思った。ぼくなんか1kmは、944mぐらいと思う。とにかくすごい。(略)	・東北もしっかりかいてある。 ・北海道もある。 ・山から赤い線がたくさんある。 ・優しい人・勉強が好きなのか。 ・10回も距離を測りに行っている。 ・17年間歩きつづけている。 ・どうして距離を測りたかったのか？ 正確に測るのは難しいと思った。忠敬は正確に日本地図をかいてすごいと思った。実際に自分もやってみて、もっともっとすごいと思った。(略)
全体の学習問題を つくる	2	忠敬の業績や歩測の体験から生まれた疑問を基に、測量を願い出たころの社会の様子や忠敬の思いを調べ、全体の学習問題に気付くことができる	○歩測の感想を話し合う。 ○測量を願い出たころの社会の様子や忠敬の思いを調べて話し合う。 ○測量の許しが出たときのことを、忠敬になりきって日記に書く。 <b>近づく</b> ○忠敬の業績や、願い、生き方について調べたいことを発表し合い、全体の学習問題をつくる。 <b>近づく</b>	文章資料 測量日記	・忠敬は地球の大きさを知るため、また、正確な暦を作ろうとして測量を決意した。 ・じっとしていないで実行に移そうと思っていた。 ・ロシアやイギリスなどが今の北海道をねらっていた。 <測量日記I> すごいうれしい。これだけ待ったかかった。さっそく用意をしよう。でも日本は広いからなあ。測量の途中に体が悪くなったりしたらどうしよう。それに、お金もあまりないのか心配だなあ。でも、とにかくお許しが出たんだからがんばらないと。正しい日本の地図をかいてみんなに日本の姿を知って学んでもらうんだ。(略) <調べたいこと> 忠敬はどんな思いで測量したのか。	・疑問に思っていることを解決したい。 ・地図を正確に作り、日本を守りたい。 ・ロシア、イギリスが今の北海道をねらっている。 <測量日記I> 今すぐ北海道に向かいたい。5ヶ月も待ちつづけて本当によかった。幕府からお許しがあったのだから完璧に正確に測り、地図を作ろう。そしていつか地球の緯度1度の長さを知り、地球の大きさを知ろう。日本に広めよう。日本を守るためにも1日も早く出発しての地図を作ろう。必ず立派で正確な地図を作って見せる。 <調べたいこと> 日本地図を作るのにどのようなたぐさんの努力や工夫があったのか!
自分の問題を つくる	3・4	学習問題に対する予想を立て、絵や文章資料などを活用して調べたり、測量の追体験をしたりして、測量の努力や工夫、忠敬の願いに迫ることができる	○学習問題に対する予想を立てる。 ○絵や文章資料などから測量の様子や、忠敬の願いを調べる。 ○学校の周囲を測量して地図をつくり、感想を話し合う。 <b>近づく</b>	写真 文章資料 絵 図書資料  御用旗 梵天 分度器 方位磁針 ひも他	<願い>正確に測量したい。測量を基に日本がどんな姿だったのか見てほしいかった。 <努力や工夫>つかれてもあきらめず、とてつもない距離を歩いた。 <願い>子午線1度の正確な長さを測りたい。正確な暦や地図を作って人の追役に立ちたい。 <努力や工夫>険しい道りを素足で歩く。測量隊をまとめる。村役人とのめめごと。部下が死ぬなどの悲しみ。 だいたい正確にはかれたと思う。でも、2、3mぐらい違うだろうなあ。早く終わった。他のところもやったけど、坂が難しかった。こんなに時間がかかったのに忠敬はすごいと思った	<願い>緯度1度の長さを自分の足で明らかにしたい。地図を作り、人々のために役立ちたい。 <努力や工夫>いろいろな道具を使い工夫して測った。 <願い>後の世の人々の参考になる地図を作りたい。人の役に立ちたい。 <努力や工夫>朝早く出発し昼は測量、夜は記録の整理、道具の検査をした。いろいろな道具を使ったり、新しい道具を作り出した。高い山などの目標を決め、大きな間違いをなくした。 なかなかうまく測れなかった。行ったり来たりと往復してつかれた。これを毎日やる忠敬はすごいとますます感じた。縮図をかいたりするのは難しい大変だった。頭を使ってかいたのを知ってすごい。日本全国を私たちがやったら生きていないと思います。

<p>追究する</p>	<p>3・4</p>	<p>○忠敬になって、測量一日目の測量日記を書く。 <b>近づく</b></p>	<p>測量日記</p>	<p>&lt;測量日記Ⅱ&gt; ついに今日から測量を始めた。だがとついてもつかれた。一日でこんなにつかれるなんて大丈夫かな。さらに正確さもまったくだめようだ。困った困った。しかし、努力に努力を重ね、重ねまくって正確な地図を作ってやる。でも、体がもちそうにない。たおれそうだ。でも、何とかして、後の世の人々の役に立つぞ。</p>	<p>&lt;測量日記Ⅱ&gt; ついに今日から測量を始めた。正確に測るのはすごく難しい。それに大変だ。このようなことを毎日毎日すると思うと…。それになかなかうまく測れないし…。すごく難しく。こんなことでやめるわけにはいかない。何回も何回も測って正確な地図をかけるようにしましょう。道具を使いこなすようがんばって正確な地図を幕府に差し出そう。</p>
<p>考えを確かなものとする</p>	<p>5</p>	<p>忠敬が学問の発達に大きな役割を果たしたことをとらえ、その願いや生き方について考えることができる</p> <p>○地図が完成するまでの様子を調べる。</p> <p>○亡くなる一日前の日記を忠敬になりきって書く。 <b>近づく</b></p> <p>○忠敬の願いや生き方について話し合う。 <b>引き寄せる</b></p>	<p>文章資料</p> <p>測量日記</p>	<p>・測量から21年、忠敬の死んだ後3年以上たって完成。 ・間宮林蔵が支える。 ・忠敬はなんとしても正確な地図を作りたいと病気にめげずにがんばった。</p> <p>&lt;測量日記Ⅲ&gt; おそらく自分の作った地図は見られないだろう。せいかくここまで来たんだから元気な体で地図を作りたい。だが、私が死んでもきっと弟子たちが日本全国を作ってくれるだろう。もう少しなのに完成が見られないのが残念。でも、弟子ががんばって完成させ、後の世の人々の役に立つことを願おう。ここまでこれでよかった。</p> <p>&lt;まとめ&gt; 忠敬の願いは「正確な地図を作って後の世の人々の役に立つ」ということだったけれど、その前に死んでしまった。でもくいはなかったと思う。ここまでこれたんだから忠敬は満足していただろう。きっと悔しかっただろうけれど、弟子にすべてを任せて静かに息を引き取ったのではないか。また、忠敬は全国を測量するという大変な役割を果たした。これについて、ぼくは本当にすごいと思う。忠敬は世の中の厳しいルールを乗り越えて日本全国を歩いた。自分だけでなく、後の世の人々の役に立とうとする生き方はすばらしいと思う。</p>	<p>・北海道の西北部の測量は林蔵が行った。 ・病気がかかってもがまんして地図の指図をした。 ・弟子たちも協力して地図を作った。 ・忠敬の死後も強い意思を受け継いで弟子たちが完成させた。</p> <p>&lt;測量日記Ⅲ&gt; 一生を閉じる前に日本全国の形を一目でいいから見たい。無事完成させてくれることを願っている。私の測量は後の人々に役に立てるといい。命が完成するまであれば…。でも、もうわずかだ。だから弟子たちを信じて幕府に差し出してもらうことを願うだけだ。自分では自分の一生に満足している。できる限りのことをやったのだから。</p> <p>&lt;まとめ&gt; 忠敬の生き方から、私ははじめ「そんなに若くもないのに…」と思ったが日本を測量し、長い年月をかけて後の世の人々のためにとがんばり、苦労したり、努力したりして、すばらしいと思った。完成した地図は見られなかったけれど、きっと忠敬は悔しくなかったと思う。日本全国を測量できたのだから。さらに、後の世の人々のために学問も発展させたし、地図をかいりしたからこそ、私たちが授業できるんだ！また、自分の強い意志と願いで自分を支えて完成させたのですごいと思った。私も忠敬のように強い意志をもちたいと思った。</p>
<p>交換し合う 考えを深める</p>	<p>6・7</p>	<p>蘭学や国学の発達について、人物を選択して調べ、このころの社会の様子について考えることができる</p> <p>○忠敬の他にも新しい学問を発達させた人がいることを知り、人物を選択して調べる。</p> <p>○その考えや果たした役割について調べ、分かったことを報告し合う。</p> <p>○このころの社会の様子について話し合う。</p>	<p>年表</p> <p>図書資料等</p>	<p>杉田玄白を選択して調べる。</p> <p>忠敬らは社会にどのような影響を与えたのだろうか？</p> <p>&lt;まとめ&gt; 4人は日本の医学や文化を発達させて、乱れていた世の中を元に戻そうとした。また、蘭学や国学などを日本に広め、人々が少しでも安心して暮らせるようにしようとした。また、外国の進んだ技術を取り入れようと思う人が増えていった。</p> <p>※ K児の変容 K児は調べる力はあるが、主体的に追究する意欲がもう一歩あった。しかし、歩測を通して、どんな思いで測量を進めたのかということに強い疑問をもち、追究していった、このことにこだわって調べ、忠敬の立場に立って考えようとする姿が測量日記の記述などからも強く感じられた。</p>	<p>杉田玄白を選択して調べる。</p> <p>&lt;まとめ&gt; 忠敬、玄白らは人々の役に立つために学問を学び、いろいろなことを成し遂げた。それにより、学問を発達させ、広めていった。蘭学や国学など新しい学問が広がり、鎖国がゆるみ、政治が乱れ始めた。</p> <p>※ S児の変容 S児は意欲的に学習に取り組むが、自分の考えをもつことに対して苦手な傾向が見られる。しかし、測量などの体験を通して調べた忠敬の努力や苦労を実感としてとらえ、考える姿が見られる。また、その働きを自分たちとつなげて考えたり、その生き方に対して考えを深めるようになってきた。</p>

### 3 考察

伊能図と江戸初期や現代の地図を比べる活動において、虫眼鏡を活用して細部にわたって観察したり、その違いを比べたりすることにより、大きな驚きを与えた。また、「限りなく現代の地図に近い。島まで正確にかいてある。」「北海道がある。」「山から赤い線がたくさんある。」など忠敬の働きや、学習問題づくりに関わる事柄について目を向けることができた。

次に、年表を活用して大まかな忠敬の働きや、生き方に対するイメージをもたせ、その後歩測の活動を行ったことはとても効果的であった。S児の感想に、「実際に自分もやってみるともっとももっとすごいと思った。」とあるように、簡単な活動ではあるが、忠敬のしたことと同じような体験をすることにより、自分から忠敬との距離を縮め、その業績や考えを実感としてとらえることができた。また、K児の感想にあるように「忠敬は1 kmを999 mぐらいにするわけだけど、自分は944 mぐらいに～」というように正確さにこだわり、自分と忠敬を比べる視点をもつことにより、忠敬に近づいていく姿も見られた。このような驚きやこだわりが学習問題づくりや、追究の姿勢に大きく関わってきている。

そして、忠敬になりきって測量日記を書く活動を設定したことにより、「正しい日本の地図をかいてみんなに知ってもらおう」「地球の緯度1度の長さを測り、地球の大きさを知り、日本に広めよう」など、忠敬の立場に立って願いを考えることができた。これが「どのような思いで測量をしたのか」「どのような努力や苦労があったのか」という疑問にもつながった。また、自分の体験や調べたことを、改めて忠敬の立場に立って考えることを通して、「どうしてここまでしたのか」という課題意識を高めることにつながるとともに、その後の追究活動において大きな視点になってきている。

さらには、追究の段階においても学校の周囲の測量や地図の作製といった体験的な活動や、測量日記を継続して書いていったことも、意欲的な追究活動を促していった。それが「厳しいルールを乗り越え～後の世の人々の役に立とうとする生き方はすばらしい」「自分の強い意志と願いで自分を支え～」というように業績からその生き方に目を向けていくことにもつながっていった。

## V 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

出会わせる  
事象の選定

○P20に示した4つにポイントを絞り事象を選定したことにより、子どもの興味・関心が高まり、その意欲を次の活動につなげていくことができた。

人物の立場に  
立って考える

○学習問題をつくる前に擬似的な体験や、模擬会談、追体験や、人物になって日記を書くなどの活動を設定したことにより、子どもたちがその時代や人物に近づき、その立場に立って願いや考えを考えることができた。

学習問題をつくる過程の重視

また、そのことにより、人物に対する問題意識が高まるとともに、その子なりの追究の視点やこだわりが生まれてきた。さらには、それが追究意欲の高まりにもつながっていった。

○まず、時代や人物を自分に引き寄せ、次に、自分から人物に近づいていく活動を取り入れるなど、時間をかけて課題意識を高めながら学習問題をつくったことにより、子ども一人一人が学習問題を自分の問題としての確にとらえ、意欲的に追究することができた。

### 2 今後の課題

地域素材の開発

○地域の人物を取り上げることが、人物や時代と自分との距離を縮め、追究意欲を高めるものとなる。今回は一人の人物しか取り上げられなかったが、今後も、地域の教材を積極的に開発していきたい。

人物との  
出会わせ方

○人物との最初の出会いがとても重要である。しかし、人物について見せる面が多岐に広がってしまい、子どもの課題意識を焦点化するのが難しくなってしまう実践もあった。人物の何と出会わせるか、十分に検討しなければならない。

全体の学習問題との  
関連を意識した  
追究

○追究する中で、自分の学習問題にのみ意識がいき、全体の学習問題との関連が薄れていってしまう傾向も見られた。全体の学習問題を常に意識しながら追究していくことのできる支援を工夫していく必要がある。

様々な立場  
から考える

○その人物に対する関心は高まったが、その反面、人物にのめり込み、事象に対する見方、考え方が狭まってしまう傾向も見られた。様々な立場から考えることのできる学習活動も工夫していく必要がある。

## 研究の成果と課題

### 〈研究の成果〉

- 「人とかかわりを深めるための学習活動表」を作成し、地域の見学や観察を中心に学習過程の中で多様な活動を設定することができた。その結果、児童は課題を明確にもって活動に取り組み、進んで地域にかかわろうとする姿勢が生まれた。
- 情報交換の場を工夫し、積極的に取り入れたことにより、児童が多様な調べ方や発表の仕方に気付き、自らの学習に生かそうとする姿が見られた。
- 課題をもつプロセスを明らかにし、それぞれの段階に応じた活動や資料を工夫することは、児童が自分なりの課題をもつために有効であった。特に、「感動や驚きを与える」「身近に感じさせる」「人とかかわらせる」教材を提示することで児童が自分なりの課題をもち、意欲的に追究することができるようになった。
- 単元の流れを提示したことは、児童に何のために、何を学習していくのかという目的をいつも意識させることだけでなく、見通しをもって学習を進めていくことにも有効であり、興味・関心を持続させることにもつながった。
- 小単元の学習計画を児童が個やグループで立てたことで、学習問題を自らのものとして考え、見通しをもって意欲的に追究することができた。また、中間報告の時間を設定したことは、追究意欲を持続させるとともに、追究する内容の修正をしたり新たな視点をつくったりすることに有効であった。
- 中間報告会など友達と情報交換することで、多様な調べ方やまとめ方に気付き、自分の目的に合った調べ方やまとめ方を選択し活用するようになった。また、友達と話し合う中で、個々の考えが深まった。
- 児童が人物の働きや生き方に目を向けた学習問題をつくるために、「心を揺さぶる人物の業績や生き方、考え方が見える」「人物の立場に立って考える学習活動が可能である」などの視点から事象を選定したことは、児童の人物に対する課題意識や追究意欲を高めた。
- 学習問題をつくる前に体験的な学習を設定し、時間をかけて課題意識を高めていったことで、児童一人一人が学習問題を自分の問題としての確にとらえ、自分なりの追究の視点やこだわりをもつことになった。さらには、それが追究意欲の高まりにもつながった。

### 〈今後の課題〉

- ・ 「人とかかわりを深めるための活動表」の中で、まとめる・生かす段階での活動を検討するなど更に使いやすく改善していく必要がある。
- ・ 実際に体験したり、経験したりできない教材で児童の学習意欲をかき立てることは難しい。意欲を高めるために、細かい地域素材の分析、教材化が必要である。
- ・ 児童に学習計画を立てさせるための手立て、効果的な支援、さらには評価の方法について、今後も研究を深めていきたい。
- ・ 追究する中で自分の学習問題だけに意識がいき、全体の学習問題との関連が薄れる傾向も見られた。全体の学習問題を常に意識しながら追究していくことのできる支援を工夫していく必要がある。